

コミュニティサロン らんまるあん むさし嵐丸庵へようこそ

空き家を活用した、地域の皆さんが気軽に集まれる憩いの場として「むさし嵐丸庵」がオープンしました。

運営は住民ボランティア「ささえあい嵐山居場所づくりグループ」が行うなど、多くの地域住民の力で実施されています。



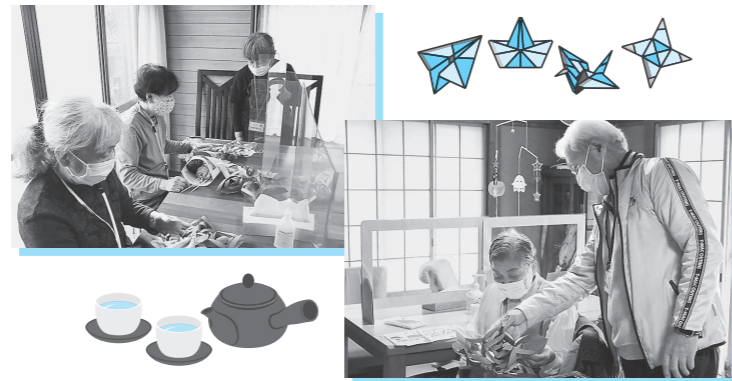
問合せ 嵐山町社会福祉協議会 Tel.0493-62-0722

開所日

- ▶ 第1金曜日 ▶ 第2木曜日
- ▶ 第3水曜日 ▶ 第4月曜日

13時～15時

この時間、いつ来ても
いつ帰っても自由！



おしゃべりに、趣味に、自由に過ごせます♪

今月の予定

- ▶ 12月 2日 (金)
- ▶ 12月 8日 (木)
- ▶ 12月21日 (水)
- ▶ 12月26日 (月)

どなたでも
参加できます！



むさし嵐丸庵へのアクセス



所在地：嵐山町志賀6-19
※駐車場もあります。



備品やかわいい飾り付けはボランティアの方々のご協力で備え付けてあります。



戸袋に描かれた「むさし嵐丸」の絵が目印。大妻嵐山高等学校美術部の生徒達が描いてくれたものです。



利用料 100円(駐車場は無料)

持ち物 飲み物、室内履き



スマート農業ほ場での実証

田植えの時間が
6時間から22分
に短縮されました！
(1.1haあたり)

スマート農業を
活用した成果



今年、町と町農業再生協議会は「農業用ドローン」を使った水稲(お米)の直播作業を(農)らんざん宮農のほ場で実験的に行いました。
5月上旬、特殊な加工を施したお米の種をドローンに入れ、上空から田んぼに播きました。従来のお米作りでは、種から苗の状態まで育ててから田植えをします。苗箱を使って約1か月かけて育てますが、直播することでの作業が不要になり、時間の短縮になりました。また、お米作りで最も負担になっていたのが苗箱を田んぼまで運ぶ作業です。苗箱は1つ約7kgあり、田んぼの面積によって必要な苗箱の量が変わります。今回実験を行った田んぼでは約90箱必要になります。苗箱運びにはたくさんのスタッフが必要になります。直播をすることで作業がなくなり、労働力の削減になりました。

次期作からドローンを本格的に導入



今回のスマート農業の実証では、ドローンの直播を専門業者に委託しましたが、これを機に
9月中旬に稲刈りを行いました。収穫は通常のお米作りと同じくコンバインを使って稲を刈っていききました。収穫量は10aあたり85俵。今年の嵐山町全体の平均収穫量は約8俵なので通常のお米づくりに負けない結果になりました。
人手を省き時間短縮にもなる農業用ドローンの活用で、収穫量でも良い結果を得ることができました。

収穫量も十分



農業用ドローンは種を播くだけでなく、除草剤の散布や肥料の散布でも活用することができました。稲刈り以外のほとんどの作業でドローンが活躍しました！

(農)らんざん宮農では、次期作から農業用ドローンのオペレーターを育成する等、本格的に導入する予定です。
直播による栽培面積も徐々に拡大し、さらに他の農作物の作業にも活用し、農作業の効率化と生産性向上を目指します。

